

<p>創立 20 周年</p> 	<p>学校だより</p> <h1>おやまがおか</h1> <p>～全ては、子どもたちの笑顔のために！～</p>	<p>町田市立小山ヶ丘小学校 校長 大川 優 2024（令和6）年 6月30日 発行 第267号</p>
<p>〒194-0215 町田市小山ヶ丘五丁目37番 電話 042-770-6251 FAX 042-770-6258</p>		

## インプットとアウトプット

副校長 向井 俊哉

今から約 15 年前、私が担任だった時に国語の「言語活動」について研究を行ったことがありました。人が他の誰かとコミュニケーションをとる際に、大きく分けると次の四つの言語活動「聞く」「読む」「話す」「書く」があることを学びました。

「聞く」「読む」については、時にはこちらの意図に関係なく受動的にインプットされてしまうものもあります。主体的に「聞く」「読む」こともありますが、外からの情報を自分の中に取り入れるインプットの作業になります。一方、「話す」「書く」については、自分のもっている知識や経験を、一定の練習や訓練を経て能動的に外に伝えるアウトプットの作業になります。15 年前の校内研究では、表現力を育成するために「話す」「書く」のアウトプットの重要性を教職員で確認し、推進しました。

私が一日の中で、意識、無意識関係なくこの「聞く」「読む」「話す」「書く」に費やす時間の割合を考えると、「聞く」40%「読む」30%「話す」20%「書く」10%位かなと思います。年齢や性別、性格や職業によっても違いはあると思いますが、周りからの情報をインプットすることのほうが多いのではないのでしょうか。また、最近はキーボード入力主流になり、「書く」ことの割合はもっと低くなっているのかもしれない。

小学校段階では、自分の中に様々な情報や知識をインプットすることの大切さ、漢字の書き取りや作文、計算問題の習得のために「書くこと」の重要性があると思います。一方で、今後、変化の激しい新しい時代を生きていくうえで ICT 機器を活用することのできる力も身に付けていく必要があります。

学習指導要領では、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養としています。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が示されています。

学校や家庭、社会生活で得た知識や技能、経験などの「インプット」したものを相手の気持ちや周りの状況を考えながらより良く表現「アウトプット」していくことが大切です。

小山ヶ丘小学校では、重点目標の読書活動を充実させることで、知識や想像力を「インプット」し、自ら意欲的に「アウトプット」できる力を向上させたいと考えています。また、「言語活動」を様々な教科・単元の授業において重点的に扱ったり、授業形態を工夫したりしながら、バランスよく習得できるよう努めてまいります。

